**⑦　パワーバランスの変化**

**Ⅰ．ペロポネソス戦争**　　トゥーキュディデース『戦史』→アテネの将軍

国際政治を学ぶ

→近代の政治

　１．事実関係

**前431年：ペロポネソス戦争勃発**⇒　紀元前404年　アテネ敗北

→古代ギリシア、共通の敵がいた

→古代ギリシアは連携していた、ペルシャ戦争

→平和の時代が訪れる

**【デロス**】同盟（アテネ中心）対【ペロポネソス】同盟（スパルタ中心）

→アテネの方が敗北で終わる

　２．真の原因、戦争の

　　「アテーナイ(アテネ)人の勢力が拡大し、ラケダイモーン(スパルタ)人に【恐怖】をあたえたので、やむなくラケダイモーン人は開戦にふみきったのである」（I:23）

→アテネの急成長が相手側に恐怖心を与えた

→パワーバランスの変化

→アテネの方がスパルタより早かった

３．アテネの台頭

　　①勢力の三つの主要な要素：軍【船】・軍【資金】・領土（I:15, 80-81）

→海洋国家ならでは

　　②アテネの特徴：1)【土壌】の貧しさ(スパルタと比べて)⇒内乱まれ⇒難民の流入、安定しているから⇒【人口】の増加

→なぜ内乱がまれ？

→土地が少ないので奪い合う必要がない、海運業が栄えていたのでそこに逃げれた、

2)海洋の利用による【商業】活動、3) 同盟国から軍【船】と【年譜金】(taxのようなもの)の徴収

→経済力を高めていった

→そういう中でアテネの経済成長がスパルタを上回る

→このパワーバランスの変化が戦争の主原因だと考えられる

**Ⅱ．パワー移行論**　　オルガンスキー『世界政治』（1958年、1968年）

→パワー移行論→二つの国をベースに

１．国家のパワー移行の諸段階

　国力の主要な決定要因：【産業力】・【人口】・**政府組織の**【効率性】

1. 【潜在】**的パワーの段階**：産業化以前　主に農業
2. **パワーの**【過渡的成長】**の段階**：産業化　パワーの急成長
3. **パワーの**【成熟】**の段階**：相対的パワーの低下　現在のアメリカや西欧諸国

→段階の差がある

→国家のパワー以降がある

→国によって経験する時期が違う

→これは国家ごとの話

２．世界史における三つの時期(全世界的なこと)

①【産業革命**】前**　【勢力均衡】理論で説明可能

→balance of power →　各国の成長が遅い、産業革命前だから

産業革命後②**現代（1750～）・近い将来**　【パワー移行】理論による説明が適切

1. 主に【産業化】の差異による迅速で劇的な変化　過去：帝国主義や移民も

→産業化がめっちゃ重要

→国によって異なってくるため、めっちゃ差がつく

2)諸国家間の関係の【強化】・【持続】　経済的な相互依存関係・同盟関係

③**全国家の**【産業化】**後**　新しい理論が必要

→パワー移行理論ではないもの

３．挑戦のパターン　過去200年間　銑鉄の生産

①第一次世界大戦：支配国【イギリス】　⇔　挑戦国【ドイツ】と【アメリカ】

パワーの平和的な移転　イギリス→アメリカ、支配的地位の移転、平和的になされた、英仏の【国際秩序】を米が受容

→アメリカが需要した

→チャレンジしたのがドイツ

→引き受けたのがドイツ

②冷戦：支配国【アメリカ】　⇔　　挑戦国【　ソ連　】と【　中国　】

→アメリカ中心の秩序

　【　人口　】の多い【　中国　】が西側の大国にとって最大の脅威に

→いかに人口というファクターが重要か

→世界一流レベル、たくさんの人口を生かしている

４．平和の条件

　①【満足】国家群のパワーが圧倒的であるとき平和は保障される。

→現状に満足、現状維持を好む→基本的に平和

②支配国(基本的に満足)と【不満足】な挑戦国のパワーが【　均衡　】しつつある時に戦争は起こりやすい。

→イギリスからアメリカに移行

→アメリカは不満足な朝鮮国ではなかった

**Ⅲ．中国の台頭**　　→GDP→国内総生産

→1995年→アメリカに肉薄していた、日米同盟の再定義もされているこの頃

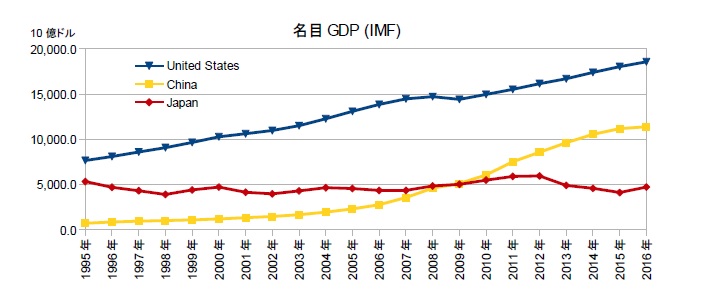
→しかし、ほぼ横ばい状況である最近の日本

→成長中の中国→2010年に日本を追い越す

→2001年の段階では日本の4文の1だったのに、、、、、、、

→パワーバランスは劇的に変わっていった

　１．日米中のパワーバランスの変化



２．パワー移行論の問題点　レヴィ「パワー移行理論と中国の台頭」（2008年）

1. パワー：【技術革新】という質的変化を十分に捉えていない。

→量の比較だけでは比較にならない

→しかし、ここ　10年で中国の技術革新で変わっていっている

1. ヒエラルキー：単一の【　グローバル　】なシステムとして捉えている。

【複数】の国際システムとして捉えるべき。ヨーロッパの【地域】システム

1. 戦争の原因として以下を軽視：1)【予防】戦争(追い上げている国に対し今強い国が行う)、2)【核兵器】、一番おっきい重要性、3)【地域問題】

**Ⅳ．現在のパワーバランスの変化**

1. 国家安全保障戦略　『白書』463, 64　国際社会の【多極】化

→中国が世界的に強大に、アメリカはアジア太平洋地域に安全保障政策をシフトしている

→中国の急速な台頭→国際的な規範、軍事力

P64→中国、インド、ロシアの影響力→米国の影響力の相対的な変化

→多極化が進んでいる

→純粋に中国の力が増してきている

→中国が大きくなっていている

1. 国防費の推移　『白書』75-76, **109**, **252-256**（481-483）

→米国政府の財政赤字が増えている

P109→中国の現状→国防費→軍事費が拡大

　　中国：1988年度から29年間で約【　49　】倍、2007度から10年間で約【　3】倍

→やばい成長

数字が【　２】倍になる年数＝【　　72】÷年成長率

→年成長率が7.2%→10年で2倍という意味

→1%だと2倍になるのに72年

→今の日本の金利とかだときびい

P253→

日本：防衛関係費は【2014】年度まで低下し、その後上昇に転じた。

→あんま伸びていない

→P256→日本とか米国はこの10年間はほとんど伸びていない

→中国は3倍

→ソ連は一時期４倍にまでになった

３．中国の動向　『白書』**65-66**, **67**, 105-106; **114**, **137-138**

アクセス（接近）阻止／エリア（領域）拒否（【　　A2/AD　　　】）能力　定義（66）

→弾道ミサイルとかが用いられる

　　　【　第一　】列島線（沖縄、台湾、比）アメリカの空母をこの中に入れない、【　第二　】列島線（伊豆諸島、小笠原、グアム・サイパン）入れるけども行動の自由を縛る、

→日本は革新的な場所にある、中国の戦略にとって

→中国のA2/ADを妨害するにはとても重要

→日本ができることは限られている

P114→中国も台湾も兵役がある

P137→やっぱりここでも台湾の防衛予算は増えていない

→近代的戦闘機、中国は台湾海峡の中国側に大陸間弾道ミサイルがある

→中国の軍事予算はやべえ

中台軍事バランス　【中国】側に有利な方向に変化し、その差は年々拡大

→power移行論

→アメリカ→覇権、不満足ではなかった、挑戦國ではな買った

→移行は国力によるもの